

# 株式会社 八天堂ファーム

(広島県三原市)



「良い品、良い人、良い社会づくり」の理念のもと、障害者をはじめとする  
 就労困難者を支援する公益ソーシャルカンパニーとしての存在価値向上を目指しています。

## 概要

- 後継者不在となったぶどう園を受け継ぎ、社会福祉法人宗越福祉会と連携し、生活困窮者（障害者を含む）の自立支援を目的とした農福連携型就労訓練事業をスタートし、2022年現在は4名の生活困窮者（うち1名は障害者）に常時農作業を依頼しています。
- 就労環境の拡大を目指すため、小学校跡地を利活用し、完全雇用型のソーシャルファーム設置に向けて取り組んでいます。
- 約0.8畝のぶどう園で農福連携によって収穫されたぶどうについて2022年7月にノウフクJASの認証を取得しています。
- 地元高校生の課外学習でのほ場体験や、特別支援学校と連携したぶどう栽培に関する情報交換や商品開発を行っています。また、地元大学や専門学校の学生が職場体験を行うなど、学生の実習の場を提供しています。
- 生活困窮者、障害者等にやりがいを持って働ける場を提供するだけでなく、経済的な自立支援へつなげていくために、農福連携により生産した作物を加工することで付加価値をつけ、通常の流通経路ではない新たなマーケットで販売を実践しています。

## 成果

### 人を耕す

農場で働く宗越福祉会の利用者には広島県の最低賃金を上回る930円/時を支払っています。また、障害者のみならず、生活困窮者も一緒に働くことで、立場が違う人々が互いに助け合いながら仕事ができる環境を創出しています。

### 地域を耕す

遊休農地であった約0.8畝のぶどう園を引き継ぐなど、地域農業の維持・発展に寄与するとともに、地域企業や特別支援学校、高校、大学等とも連携し、地域活性化に貢献しています。

### 未来を耕す

ノウフクJASの取得や、全国の農福連携産品を取り扱うECサイトの構築、全国の農福連携に取り組む生産者と連携した商品開発等、ノウフク商品に対する付加価値の向上を図っています。



○「良い品 良い人 良い社会づくり」の理念のもと、障害者をはじめとする就労困難者を支援する公益ソーシャルカンパニーとしての存在価値向上を目指す。

### 基本情報

- 所在地：広島県三原市
- 団体名：株式会社八天堂ファーム
- 選定表彰：-
- 主力商品：
  - ・ぶどう



利用者への農作業指導風景

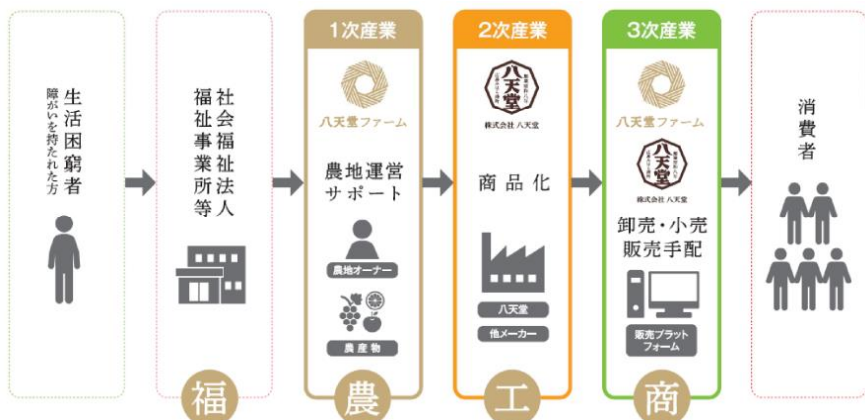


ぶどう園を荒らす猪

### 取組の概要

- 後継者不在となったぶどう園を受け継ぎ、社会福祉法人宗越福祉会と連携し、生活困窮者（障害者を含む）の自立支援を目的とした農福連携型就労訓練事業をスタート。現在は4名の生活困窮者（うち1名は障害者）に常時農作業を依頼。
- 就労環境の拡大を目指すため、小学校跡地を利活用し、完全雇用型のソーシャルファーム設置に向けて取り組んでいる。
- 約8,000㎡のぶどう園で農福連携によって収穫されたぶどうを令和4年7月にノウフクJASに申請し取得。農福連携の取組を国内外に発信していくために、自社商品のみならず、全国の農福連携産品を取り扱うECサイトを構築。また、八天堂ファームブランドを活用した全国の農福連携に取り組む生産者と連携した商品開発を開始。日本全国の農福連携の取組そのものの向上を目指している。
- 生活困窮者、障害者等にやりがいを持って働ける場を提供するだけでなく、経済的な自立支援へつなげていくために、農福連携により生産した作物を加工することで付加価値をつけ、通常の流通経路ではない新たなマーケットで販売を実践している。

### 体制図



### 取組の成果

- 従事した生活困窮者 1名→4名
- 収穫したぶどうの房数 4,000房→13,000房
- ぶどう原体売上高前年比 3倍
- 対象者のコミュニティ拡大（引きこもり→地域サロンへの参画）
- 宗越福祉会の自主事業であった取り組みが、収入確保につながった
- 宗越福祉会へ生活困窮者支援の問い合わせが、約2倍に増加
- 地元住民の仕事創出（5名）

所在地 ▶ 広島県竹原市宮浦3丁目31-7

連絡先 ▶ TEL:0848-62-2645 E-mail:[y\\_hayashi@hattendofarm.co.jp](mailto:y_hayashi@hattendofarm.co.jp)

ウェブサイト ▶ [https://hattendo.jp/hattendo\\_grape/](https://hattendo.jp/hattendo_grape/)

# 【取組のプロセス】

令和2年

きっかけ

県立広島大学大学院経営管理研究科（HBMS）にて八天堂と宗越福祉会の担当者が出会い、農福連携に取り組む決意

竹原市で後継者が不在の圃場が増加

竹原市における生活困窮者からの相談が増加

## ぶどう園との出会い

- 農福連携を実施するために空いている圃場を竹原市商工振興課に問合せしたところ、前オーナーが急逝し遊休耕作地となっていた圃場を引き継ぐ。
- 社会福祉法人宗越福祉会と農福連携についての取組を開始。



引き継いだ農園の当時の風景

## 農福連携の開始

- 農研機構で30年ぶどう栽培に携わった方が当農園に技術指導者として従事。
- 圃場全体の60%にあたるぶどうが猪等に被害を受けたことで令和3年度に鳥獣被害防止総合対策交付金（鳥獣被害防止総合支援事業）を竹原市をとおして申請。



中国新聞で取り上げられた記事

令和3年

鳥獣被害防止総合対策交付金（鳥獣被害防止総合支援事業）を申請

## 商工農福連携のスタート

- マーケティング活動の一環として農福連携で収穫したシャインマスカットを用いたくりむパンをクラウドファンディング（Makuake）をとおして新商品の露出及び顧客からの情報収集を行った。
- ノウフクJAS取得後、ぶどうの原体を地元大手スーパーにて販売。



クラウドファンディング（Makuake）トップページ

令和4年

小学校跡地の利活用が出来ていない実態を行政と協議

## 商工農福連携プラットフォームの構築

- 全国の農福連携事業者と連携し、加工、販売のお手伝いを担う。
- 学校跡地を利活用したソーシャルファーム設置のお手伝いと販売代行。



八天堂ECサイトの概念図

今後の展望

# 株式会社 和光ワールド

(愛媛県伊予市)



「誇れる産品を農場からテーブルへ」を理念に、誰もが活躍できる地域社会を目指し、農福連携により生産したきくらげを使った商品開発等、企業との連携の輪を拡大しています。

## 概要

- 奥内子の天然水を利用したこだわりのきくらげを、サイズ分け等の多くの手をかけることにより付加価値を高めることに成功し、出荷量を伸ばしています。
- 多数の企業と連携し、きくらげの商品を開発しており農福連携の輪を広げています。
- 地域の農業高校を農福連携の1日体験に招くことにより交流を図っています。
- 障害を持つ方にも商品パッケージをデザインしてもらうなど、得意分野を活かした取組を展開しており、2021年は7名の障害者の方が就業しています。

## 成果

### 人を耕す

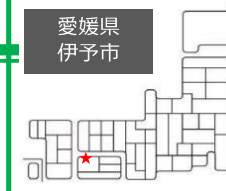
障害者がそれぞれの得意なことを活かせる仕事を取り入れ、目標設定シートや、自己分析チェックリスト等を活用し、自発性や仕事のパフォーマンス向上を図ることで、賃金向上を実現しています。

### 地域を耕す

地域の農業高校を農福連携の1日体験に招き、交流を図ることで、農福連携の認知を促す契機を創出しています。

### 未来を耕す

ノウフクJAS取得により、付加価値の向上が図られたことで、2021年から2022年の1年間で販路が3倍となるなど、取引の増加につなげています。



「誇れる産品を農場からテーブルへ、を理念に誰もが活躍できる地域社会を目指し、農福連携により栽培したきくらげを用い、多くの企業と連携して加工品の開発を行い、連携企業の輪をひろげていく。

### 基本情報

- 所在地：愛媛県伊予市
- 団体名：株式会社和光ワールド
- 選定表彰：-
- 主力商品：きくらげ
- イベント：農福連携地域モデルつくりキックオフ会



エネルギーが地域で循環する栽培方法で育てたきくらげを地球環境に配慮した紙パッケージで新発売。乾燥きくらげ10g(小売用)

### 取組の概要

- 奥内子の天然水を利用したこだわりのきくらげをサイズ分け等の多くの手をかけることにより付加価値を高めることに成功し、出荷量を伸ばしている。
- 多数の企業と連携し、きくらげの商品を開発しており農福連携の輪を広げている。
- 地域の農業高校を対象に農福連携の1日体験に招くことにより交流を図り、この取組が当該法人と農福連携の認知を促す契機となっている。
- 障害を持つ方にも商品パッケージをデザインしてもらうなど、得意分野を活かした取組を展開しており、令和3年は7人の障害者の方が就業している。
- 今後は荒廃農地を活用し、他の作物の生産も行っていく予定である。



きくらげ栽培の様子

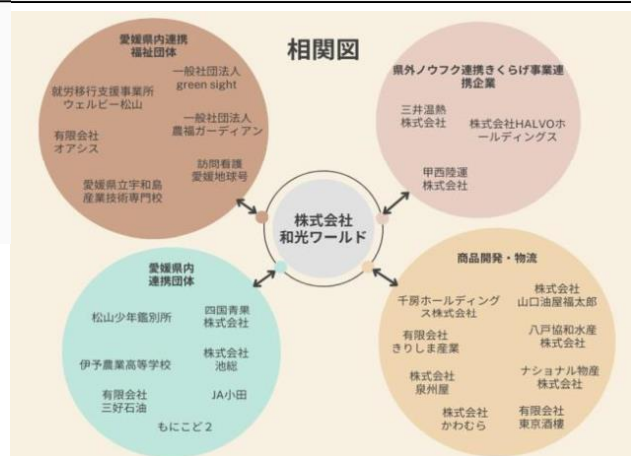


農業高校の生徒が1日農福連携体験に来た時の様子



令和5年度に販売開始のベジカレー

### 体制図



### 取組の成果

- ・ 令和3年に地域の福祉施設から施設外就労で障害者を受け入れた経験により、障害者の方々の農業への可能性を大いに感じ、障害者枠での一般就労の正社員2名の雇用が始まった。
- ・ それぞれの得意を見つけ活かせる仕事を取り入れ、目標設定シート、自己分析チェックリスト等を活用し、自発性や仕事のパフォーマンスが向上したことで、賃金が向上した。

所在地 ▶ 愛媛県伊予市市場甲4 3 0 - 2

連絡先 ▶ TEL:090-1665-0018 E-mail:info@wakoworld.com

ウェブサイト ▶ <https://www.wako-world.com>

# 【取組のプロセス】

平成19年

障害者の方の工賃が少なすぎること疑問を抱いていた前任者と令和2年につながる。

令和3年

食品メーカー・食品総合卸商社からの支援。

令和4年

障害者の方々の可能性の大きさを改めて実感したことにより、障害者枠での一般就労の雇用を開始。

地域の企業の方々からの支援により、荒廃農地の活用が始まる。

様々な障害を持つ方々が活躍できる場所にするには商品の価値をどう高めるかが必須であると考える。



一般社団法人green sight  
就労継続支援B型  
(グループ会社)

今後の  
展望

## きっかけ

○障害者の方々の活躍できる場所が少なすぎると思いはじめたこと。

きくらげ栽培で菌床の研究から全国各地へ栽培指導を行ってきた経験を活かし、ノウフクきくらげ農場の運転を開始

- 地域の福祉施設から施設外就労に来て頂き、生産量の向上に伴い、作業に従事した者の工賃が向上。
- 従事した障害者の人数が10名に至り、ノウフクJAS取得によって2年から3年の1年間で販路が3倍になる。
- 農福連携周知活動の一環として、イベントを開催。地域の農業高校を招いての農福連携の1日体験交流が始まる。(第1回)
- 認定農業者になる。

助け合うことで生まれる本来の豊かさにつながる心地よさを体験し、ブランディング開始

- 農福連携により、きくらげ栽培に一層丁寧な手をかけられると感じ、収穫のタイミング、サイズ分け等により、他にはない生産が可能になる。
- 食品メーカーとの連携により、高品質な製品化が可能となり販路が広がる。
- 県外からも様々な企業、学生が現地視察や研修に訪れる様になり、交流人口が増加し始める。

欠かせない商品開発、しかし販売できる製品に仕上げるには専門の知識や経験が必要(生産工程や衛生管理、コンタミ防止、添加物の種類など)

- 海外での流通を視野に入れ、国内においても流したいところへ流せる物流を意識し、食品メーカーに商品開発の工場選びから試作、パッケージ素材、流通までほぼ全てに関わっていただくことにより、連携の輪も広がり、利用者の方々のやりがいや生きがいにもつながっている。
- 以前の作業所では休みがちだった利用者の方が「毎日ここへ来たい。」と話す様になり、現在では皆勤となって工賃が向上した。

生産施設周辺の過疎化の進む、美しい自然の残るこの地域を農福連携をプラットフォームに、生産人口と交流人口を増加させる

- 令和4年11月1日に、グループ会社で就労継続支援B型の認可を受けたことにより、様々な障害をもつ方々への直接的な支援を行うことが可能になり、一人でも多くの方々のやりがいや生きがいにつながる活躍の場、そもそも人につながる居場所として、農福連携を中心に地域の課題解決に地域とともに取り組む。令和5年度には同様の取組を滋賀県、沖縄県に展開していく予定。



高齢化により荒廃農地となった畑を活かす



千房ホールディングスとの連携商品



NYから農福連携の視察へ